



阪神・淡路大震災 20 年特別企画ゼミナール～自治体の災害対応の経験・教訓を「伝える」「育む」～ 特別企画第2回 「地域・世代を越えて『伝える』『育む』ために必要な取り組み」

開催のご報告

2015 年 1 月 23 日
神戸国際会議場 国際会議室

◇ 開催概要

一般 2015 年 1 月 23 日に、神戸大学都市安全研究センター、神戸大学社会科学系教育研究府主催、自治体の災害対応の経験・教訓を「伝える」「育む」をテーマとした阪神・淡路大震災 20 年特別企画ゼミナールを開催いたしました。当日は、行政関係者、大学等研究機関の方をはじめ、160 名の様々な立場の方々にご来場いただきました。

本ゼミナールでは、2回にわたって、阪神・淡路大震災や東日本大震災等、大規模災害の経験・教訓を継承し広めていく方法について検討しました。今回は第 2 回として、東日本大震災と阪神・淡路大震災、2つの被災地から講演者をお招きし、地域を越えて経験・教訓を伝え、育むための取り組みのあり方について検討いたしました。

◇ 東日本大震災の被災地から「伝える」こと

プログラム前半の特別講演及び基調講演では、東日本大震災の被災地における、災害対応の経験・教訓を伝えるための取り組みの現状についてお話をいただきました。

まず特別講演として、気仙沼市長の菅原茂様から、「東日本大震災から3年『伝える』ために始まった取り組みと今後の展望」と題して、東日本大震災での被災状況と、今般の震災の経験・教訓を、どのように今後の復興のまちづくりにいかしていけるか、お話をいただきました。特に、震災の経験・教訓を広く伝えていくことを、被災地としての使命と捉え、被災直後から市として震災に係る記録の収集を続けていること、津波被害をうけた学校施設を伝承施設として整備するための検討を進めていることもご紹介いただきました。



続いて、石巻市産業部長の木村伸様より、基調講演「東日本大震災時の災害対応時における教訓と課題」と題して、お話をいただきました。木村様は、東日本大震災発災当時は、市の防災対策課長として、災害対応の最前線で、市の応急・復旧対策にあたっていらっしゃいました。避難誘導や避難所運営など、対応が思うように進まなかった実態を失敗と捉え、市民も市職員も、今回の失敗に真に向き合っ、有事の際の避難行動や災害対応へ自覚を持ち、今後の取り組みへ活かしていくことの重要性をお話いただきました。

◇ 地域・世代を越えて「伝える」こと

後半のパネルディスカッションでは、前半でご講演いただいた御二方に加え、芦屋市、兵庫県広域防災センター及び人と防災未来センターという阪神・淡路大震災の被災地の組織の代表の方にも御参加いただき、地域を越えて、「伝える」「育む」ことの現状の取り組みとその難しさを共有しました。



(左から)神戸大学紅谷先生(コーディネーター)、芦屋市今石様、兵庫県広域防災センター上り口様、人と防災未来センター宇田川様

阪神・淡路大震災の被災地では、震災から 20 年が経過するなかで、市民の方も含めて震災の経験や教訓を伝えていくための施設やしくみの整備が進んでいる一方、行政の組織に着目すると震災を経験していない職員が増え、経験の蓄積が風化しつつあるという課題認識が出されました。そういった状況下で発生した東日本大震災において、阪神・淡路大震災時の災害対応の経験を活かすことができているかというテーマもディスカッションの論点の1つになりました。東日本大震災の災害対応では、阪神・淡路大震災の災害対応に当たられた職員の方の経験談・失敗談に基づき、各局面で次に対応が必要になる事象や想定される課題の見通しを立てることができたなど、経験が活かされたお話もいただきました。

また、災害への対応や災害からの復興のまちづくりを進めるうえでは、制度の壁も多いことが話題にあがりました。今後発生が危惧される大規模災害に備え、災害に強いまちづくりを進めるためには、災害によって生じた事象について、被災直後の応急対応から復興期のまちづくりまで細やかに検証を行い、検証を経た経験を「伝え」、「育む」ことが重要であることが認識されました。このような取り組みが、今後の更なる改善へのきっかけとなります。

【開催概要】

<p>神戸大学都市安全研究センターRCUSS オープンゼミナール ひょうご防災リーダーOB公開講座 阪神・淡路大震災 20 年特別企画 自治体の災害対応の経験・教訓を「伝える」「育む」</p>		
日時 会場 参加費、定員	第 1 回	2014 年 12 月 19 日(金) 14 時 00 分～17 時 00 分 神戸大学百年記念館 六甲ホール 参加費:無料、来場者 120 名
	第 2 回	2015 年 1 月 23 日(金) 13 時 30 分～17 時 00 分 神戸国際会議場 国際会議室 参加費:無料、来場者 160 名
主催	神戸大学都市安全研究センター、神戸大学社会科学系教育研究府	
共催	兵庫県広域防災センター、神戸市、三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社	

【第1回プログラム】

基調講演	阪神・淡路大震災から 20 年を経て伝えていくことの難しさ 神戸大学名誉教授 兵庫県立大学防災教育センター長 室崎 益輝
課題報告	教訓を伝えることに関する被災自治体職員の現状認識と課題 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 防災・リスクマネジメント研究室 主任研究員 平野 誠也
取組報告	持続的・継続的に「伝える」「育む」ためにはじまった取り組み 芦屋市 都市建設部防災安全課長 柿原 浩幸
パネル ディスカッション	阪神・淡路大震災の災害対応から得た「伝える」「育む」こと 【コーディネーター】 神戸大学名誉教授 兵庫県立大学防災教育センター長 室崎 益輝 【パネリスト】 神戸市 危機管理室 総務担当課長 藤重 敏郎 西宮市 都市局建築・開発指導部 開発指導課長 畑 文隆 芦屋市 都市建設部 防災安全課長 柿原 浩幸

【第2回プログラム】

特別講演	東日本大震災から3年:「伝える」ために始まった取り組みと今後の展望 気仙沼市長 菅原 茂
基調講演	東日本大震災時の災害対応時における教訓と課題 石巻市 産業部長 木村 伸
パネル ディスカッション	持続的・継続的に「伝える」「育む」ための取り組みと今後のあり方について 【コーディネーター】 神戸大学 社会科学系教育研究府 特命准教授 紅谷 昇平 【パネリスト】 気仙沼市長 菅原 茂 石巻市 産業部長 木村 伸 人と防災未来センター 研究主幹 宇田川 真之 兵庫県 広域防災センター長 上り口 豊 芦屋市 企画部市長室長 今石 佳太

【本件に関するお問い合わせ】

- ◇ (主催者代表) 神戸大学都市安全研究センター 担当:熊崎(くまさき)、北後(ほくご)
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 TEL:078-803-6440 FAX: 078-803-6394
URL: <http://open.kobe-u.rcuss-usm.jp/>
- ◇ (共催者事務局) 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社 担当:梨子本(なしもと)、秋元(あきもと)
〒530-8213 大阪市北区梅田 2-5-25 TEL:06-7637-1460 FAX:06-7637-1479